

別紙様式（別記 1 の第 6 の 1 関係）

被害防止計画目標評価報告書

1. 対象地域及び実施期間

対象地域	栃木市全域
実施期間	令和元年度～令和 3 年度

2. 被害防止計画目標の達成状況

被害防止計画目標	基準年（平成 29 年度） の実績値 (A)	目標値 (B)	目標年（令和 3 年度） の実績値 (C)	達成率 (%) $A - C / A - B$	備 考
イノシシ被害金額（万円）	175.1	140.0	22.6	434%	
ニホンジカ被害金額（万円）	0.0	0.0	5.4	-	
ニホンザル被害金額（万円）	0.0	0.0	0.0	-	
ハクビシン被害金額（万円）	608.5	486.8	413.1	161%	
鳥類被害金額（万円）	1.8	1.4	6.3	-1125%	
被害金額計（万円）	785.4	628.2	447.4	215%	
イノシシ被害面積(a)	833	666	102	438%	
ニホンジカ被害面積（a）	0	0	17	-	
ニホンザル被害面積（a）	0	0	0	-	
ハクビシン被害面積（a）	32	25	40	-114%	
鳥類被害面積（a）	1	1	51	-	
被害面積計(a)	866	692	210	377%	

3. 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業内容	事業量	管理主体	供用開始日	事業効果
有害鳥獣捕獲（緊急捕獲活動推進事業）	R1 イノシシ成獣 1,273 頭	協議会		イノシシ・シカ等の捕獲強化を実施し、被害軽減につながった。
	幼獣 192 頭			
	シカ 成獣 372 頭			
	幼獣 6 頭			
	サル 成獣 1 頭			
	鳥類 124 羽			
	R2 イノシシ成獣 1,345 頭			
	幼獣 195 頭			
	シカ 成獣 499 頭			
	幼獣 18 頭			
	鳥類 253 羽			
	R3 イノシシ成獣 781 頭			
	幼獣 95 頭			
	シカ 成獣 667 頭			
	幼獣 18 頭			
	サル 成獣 2 頭			
	ハクビシン 65 頭			
	アライグマ 68 頭			
	鳥類 274 羽			

4. 総合評価

環境整備、柵による防御、有害捕獲の3本柱による対策を推進し、被害は大きく減少した。特に、鳥獣管理士を被害自治会等に派遣することで、住民自らが参加し、正しい知識に基づく対策の実施ができるよう配慮した。

獣類の被害はイノシシが中心だが、豚熱蔓延の影響からか生息数、被害額、捕獲頭数ともに減少している。一方、思川河川敷や渡良瀬遊水池など新たに生息が確認された地域では引き続き生息と周辺での被害が確認されている。今後は山間部でも生息数の回復が見込まれるため、引き続き対策に努めていく必要がある。

鳥類は、カラス類等について、農家自身による追い払いと、銃器による駆除を行っているが、被害減少には至らなかった。

ハクビシン、アライグマについては被害を受けている住民自身による直接の捕獲及び猟友会による捕獲を行い、被害の減少に寄与している。

5. 第三者の意見

最近の傾向として、獣類の被害、特にイノシシについて豚熱の影響から生存率が悪く、また高温で出生率が悪いと同時に出生しても豚熱にかかり生存率が低いため、イノシシ被害は少なくなっている。

また、シカ、サルの被害も自己防衛も行われており、さらに市の応援によりハクビシン・アライグマについてワナの貸与等により自己防衛が進んでいると思われる。

引き続き、獣害をなくすため今までの対策を継続的に推進することが重要である。

自己防衛、集団防衛の重要性を地域全体に広める必要がある。

- (注) : 1 被害防止計画目標の達成状況が低調である場合は、実施要綱別記1の第6の1に基づき改善計画を作成し、地方農政局長等に提出すること。
- 2 3の事業効果には、別記様式8号を参考に事業の実施により発現した効果を幅広く定量的に記入すること。なお、処理加工施設や捕獲技術高度化施設を整備した場合は、当該施設の利用率も記入すること。
- 3 4の総合評価のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由も記入すること。
- 4 鳥獣被害防止施設の整備を行った場合には、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況並びに侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類、設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。